

主な展示資料

番号	資料名	点数	備考
1	庭訓往来	19	
2	百姓往来	4	
3	泰平古状揃大成	12	
4	実語教・童子教	9	
5	論語	26	
6	孟子	50	
7	文部省読本字引略解	38	
8	尋常小学珠算教科書 卷之一	22	
9	連語図 第三～第十	3	
10	山形県地誌提要 上	31	
11	小学入門	11	
12	小学読本	35	
13	小学読本字引 全	8	
14	普通小学諸礼式 完	12	
15	幾何実用 卷之一	13	
16	小学生徒心得	3	
17	公証取消願及物件流失届標目用紙	1	
18	進達指令書用紙	1	
19	山形県九拾一條 改正 違式詰違	1	
20	文例書式 扉	1	
21	戸籍用野紙	1	
22	山形郵便電信局用紙	1	
23	為替貯金報告書	1	
24	貯金事務・預金預所 荒井太郎	1	
25	切手・葉書売下数量等集計表	1	
26	明治關商店支払票	1	
27	宿帳用紙	1	
28	売捌書肆一覧	1	
29	金銭出納用紙	1	
30	製造所㊤山形煙草合資会社	1	
31	荒井太四郎業務拡張広告	1	
32	材木尺締一覧表 緒言	1	

番号	資料名	点数	備考
33	楨字・検印・日附印	1	
34	難病治療広告 医 武田真佐人	1	
35	萬染物舗㊤京屋吉治	1	
36	陸軍御用 松坂屋醸酒店	1	
37	大日本畿内東海東北陸三道之図	4	
38	山形県暗射地図	4	
39	山陽南海西海四道之図	6	
40	小謡本	8	
41	下懸小謡大成百番 全・扉	1	
42	源氏五十四帖香図・百人一首	16	
43	水引結び図	1	
44	風翁細谷先生書画に関する一文	1	
45	細谷風翁書画展観録	1	
46	「書画会 附新古書画展観席上煎茶」 案内状	1	
47	不動明王像	1	
48	釈迦如来	15	
49	袖珍輿地指南	1	山形市 五十嵐太右衛門
50	山形県下名所図会	1	〃
51	山形県新築之図	1	〃
52	山形県下眼鏡橋之真景	1	〃
53	諸願書類輯	1	〃
54	小学読本 卷四	1	〃
55	初学知要	1	〃
56	山形県地誌略	1	〃
57	山形県新築之図	1	山形市 佐藤光男
58	山形名所	8	〃
59	山形県管内大小区別一覧 全	1	〃

協力者

山形市 阿部 保雄 山形市郷土館  
山形市 栗田 幸助

特別展

明治の山形版木展

昭和57年10月5日(火)～12月5日(日)

山形県立博物館

開催にあたって

明治になると、山形にも文明開化という近代化の波がおしよせてきました。  
小学校がつくられ、郵便局ができたり鉄道が敷かれたりして、山形の近代化の基盤がつくられました。  
今回の特別展は、山形市在住の荒井徹氏が所蔵する、明治時代のはじめごろに出版された教科書や野紙・諸用紙などの版木を展示し、山形の文明開化、また明治の人びとのくらしを考えようとするものです。  
開催にあたり、所蔵者の荒井氏をはじめ、資料をお借りしたり、情報を提供していただいた方々に厚くお礼申し上げます。

昭和57年10月

山形県立博物館長

## 展 示 解 説

### ◎ 木版印刷の歴史

人類は、言葉を発明し文字をつくりだしたことによって、ものごとを他の人に伝えることができるようになり、それを石や木や粘土に刻みつけることによって、できごとを保存することをおぼええました。

やがて紙が発明されると、人びとは印刷によって記録を複製することを考えだしました。

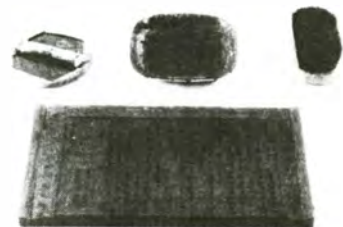
最初の印刷は、木版刷りで、中国がその発祥の地とされています。年代は、はっきりとはわかっていませんが、おそらく唐代のはじめごろと考えられています。

現存する最古の印刷物は、奈良時代の宝亀元年（770）に称徳天皇によって納められた「百万塔陀羅尼」といわれ、今も法隆寺に残っています。

その後停滞していた木版技術は、平安時代後半ごろの、「成唯識論」など、いわゆる「春日版」といわれる一連の出版物によって一応の確立をみました。

江戸時代になると、瓦版や草双紙、滑稽本、談義本などいろいろな読み物が出版され、藩校や寺子屋で使われた教科書、四書五経や往来物なども大量に出版されました。また、浮世絵版画の隆盛により木版技術は進歩をきわめ、精巧な印刷ができるようになりました。

やがて明治時代になると、西洋の文物とともに活版技術がもたらされました。活版は木版とくらべて (1)製版が安く速くできる。(2)はやく大量に印刷できる。(3)きれいに仕上るなど、多くのすぐれた特徴をもっていたため、木版にかわって印刷の主流を占めるようになりました。



木版刷りの道具

### ◎ 山形の版元

江戸時代、山形には玉泉堂喜内、弧月堂子得、北條忠兵衛（崑輪堂）、玄樹堂などの版元がいましたが、明治になると遠藤司、五十嵐太右衛門、荒井太四郎（明治閣）、荒井清作（佩玉堂）などの版元が登場します。

このたびは、荒井太四郎が出版していた「明治閣」蔵版の版木を展示しています。

版木は、幕末ないし明治初年から明治20年ごろまでの、明治前半期につくられたものがほとんどで、教科書類が7割近くを占めています。

### ◎ 県内で使われた教科書

幕末のころ、城下町には藩校が、町や村には寺子屋があり、武士や庶民の子弟を教育していました。論語、孟子、大学、中庸などの四書五経、百姓往来、庭訓往来、古状揃などの往来物が藩校や寺子屋で用いられました。

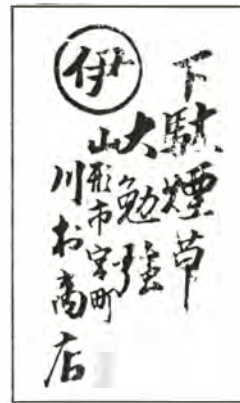
明治になると、学制にもとづいた小学校ができ、東京の師範学校で編集した教科書を、各府県で翻刻して用いました。

### ◎ 官公庁で使われた用紙

明治維新によって、それまでの藩がなくなり、県の制度がしかれました。また庄屋のかわりに戸長がおかれ、郡区町村編成法の公布によって山形には11の郡ができることになりました。県の事務は県庁で、郡の事務は郡役所とられるようになると、戸籍や税金の用紙、罫紙などいろいろな用紙が必要になってきました。



小学読本 卷之四 版木



郵便取扱所として新たに出発することになりました。このたび展示しているものは、十日町郵便取扱所（現在の三日町郵便局）で使われたものです。

### ◎ 商いと広告

明治になっても、商いの形態には、さほど変化はなかったものと思われますが、文明開化らしくガラス製品やカンヅメなど、西洋風のものもあつかわれているのがわかります。

版木には、鶴岡や院内（秋田県）のものもあり、商い品目や商圏などがうかがわれて興味がつきません。

### ◎ いろいろな地図

明治のはじめは、廃藩置県や郡区町村編成法によって、人びとをとりまく環境がめまぐるしく変わりました。このようなとき、地理をただしく認識するために、いろいろな地図や地誌が出版されました。

地図はまた、教育や行政の面でも必要とされました。

「大日本畿内東海東北陸三道之図」は、明治10年に定価85銭で発売されたものです。

### ◎ 趣味と娯楽と信仰と

幕末から明治にかけて、山形で出版された本などから、当時の山形の人びとがどのような暮らしをしていたのかを、うかがうことができますが、版木からは、断片的ながらも一層広く、くらしぶりを知ることができます。

小謡本や源氏五十四帖香図・百人一首などの趣味・教養的なものもとより、水引結び図などの実用的なもの、不動明王画像や釈迦如来などの宗教・信仰にかかわるもの、さらには、山形の生んだ文化人・細谷風翁（1807～1882）の書画展観録、新古書画展の案内状などから、明治初年の山形の人びとのゆたかな精神的な生活がうかがえます。



山形市街図

一方、明治5年には十日町と旅籠町に、山形郵便局の仮庁舎が設けられ、郵便・電信・貯金の三業務がはじめられました。やがて本庁舎が竣工すると、仮庁舎は、